昭和四年三月廿九日 第三種郵便物認可

（十四日夕刊）　昭和四年十二月十五日　THE TOHOKU NICHINICHI SHINBUN（日曜日）　第三百五号（一）

夕刊 東北日報

年中無休刊
本紙郵税共一ヶ月三十錢 一部三錢
廣告料一行五錢 協賛指定三錢
發行兼編輯印刷人 石井孝
發行所 福島縣石城郡平町十番地東北日報社 電八三三

歳末の世相さま〳〵

迫る年の瀬に 泣き顔の料理店

忘年會の注文もなく 火の消えた様な新田町

餘すところ後半ヶ月。地軸一轉すれば慌らしい年を迎へるのだ舊暦越年の平町では言へ例年とも矢張り

今頃から 新暦の忘年宴會がボツ〳〵催されて相應に料理店藝妓屋の懐ろを肥やすのだが今年は殆んど皆無といつていゝ有様一流の料理店でさい『まだ申込みがありません』と云つてゐる緊縮の世柄であるだけに例年なら一、二流の料理店に持つて行く忘年會も今年は

三流どころ で堪らへるのではなからうかと聞いて見ると『てんで問題になりません』とばかりこれ又青菜に塩の態たらく

新田町の姉さん達も 緊縮振りを發揮！

『何々婦人會員の宣傳よりもこの方が利き目はありそう』

何々婦人會員、何々婦人會員といふ立派な肩書を有し浴びせられて居る矢先平町の藝妓連約百八十餘名が——不景氣の折柄でもあるから

明春の 御祝儀（慣習的に行はれて來た旅館、料理屋等に對する祝儀）は絶對に廢止し若しこれに違反した藝妓があつたら五圓以内の違約金を徴収することしやう——といふ事を固く約束し實行することゝなつた爲め一般から少なからず

興味を 以て見られてゐるが藝妓屋組合側でも緊縮の良いお手本であると非常によろこんでゐる

溫かい惠みに 感謝の年越し

平町では約四十戸

◆……平人事相談所の準備

餅をつ くどころかどうして年を越したらよいかと苦しんでゐる極貧者に對して平人事相談所では毎年米券を與へて救濟をなして來たが今年は極貧者として救濟を要する人員も相當多い見込で各方部における極貧者を調査中である

平町は 新暦で正月をするので來る二十五日頃までに救濟の方法として金圓を與へ村落の方は舊年末に與へることにする由であるが平町としても不景氣がかくの如く深刻な際であるので平職業紹介所の手でそれ遠慮なくおし迫つて來る歳末に御歳暮やお年だまの事を考へられる者は、豫裕のある方で

〳〵極貧者の **調査を** なしてゐるが泣く涙もかれて四苦八苦の狀態にある極貧者か平町だけでも四十名は下るまいと

植田農産品評會

石城郡植田町農會主催農産物品評會は今十四日同町小學校に於て開催した

比佐代議士の 政談演說會

江本參與官應援

石城郡選出比佐代議士の政談演說會は十六、七、八の三日江名、小名、上遠野の三ヶ所で開催されるが本部から江本司法參與官出席

豫想されてゐる

小泉遞相 平驛を通過

小泉遞相は秋田縣に於ける民政黨支部大會に臨席したが十四日午前二時上り急行で平驛を通過した

香奠で返すからと 金百圓也を詐取

詐欺前科八犯の老曲者御用

◆……餘罪も數件自白

石城郡飯野村大字下荒川居住詐欺前科八犯志賀光成（五九）は昨十三日平署に檢擧され

嚴重な 取調べを受けてゐるが事件の内容は同人は本年九月十八日平町七丁目三富金太郎方に至りオヒの祖母が死んで始末に困つて居るのだが香奠が集まつたらすぐ返濟するから金百圓を貸してくれ證人には鈴木秋光をするが今取込中で取敢ず鈴木の妻を連れて來たからと哀訴嘆願するので三富は非常に同情して百圓を貸し與へた

然し 志賀の言葉裏に不審の點があるので志賀が歸宅するや直ちに事實を調査した處不幸があるなどとは出タラ目の出放題であり更に鈴木の妻と云ふのも日當一圓五十錢を與へて内郷村御厩の本貫宿から連れて來た事迄判明した爲め三富は直に

平署へ

詐欺の告訴に及んだ：事件であると云ふが平署でも近來にない詐欺事件なので引續き取調べた處同は

本年八月四日石城郡大浦村地内の姓不詳の民家に至り俺は役人で今人夫三名を連れ字高畑地内の測量をしてゐた處人夫一名が急病で死んだから平迄の旅費を四圓貸してくれ——と稱して詐取又平町

嚴重なる通牒 滅絶

準備教育

中等學校入學者選拔 方法につき各學校へ

東京電話—文部省が本縣に左の如く通牒あつたのでこれを中小學校長に移てうあつたのでこれを中小學校長に移てうした

一、入學者は人物考査並身体檢査を行ひ且つ小學校長の報告を參酌してこれを考査選拔すること

二、第一次選拔に際し小學校長の報告に基きて入學を拒否する場合は中等學校の學習に堪えずと認めらるゝものに限ること

三、第二次選拔における人物考査は常識素質性行等につき口頭試問の方法によりてこれを行ひ必要ある場合においては筆記試問の方法を加ふることを得ること又常識考査は小學校の教科に基き暗記暗誦に流るゝことなく理解推理等の能力を判定し得べき平易なる事項につきこれを行ふこと

右につき縣は準備教育の絶滅を期するため左の如き嚴重なる通てうを中等學校における入學者の選拔は人物考査及身体檢査を行ひ且つ學校長の報告を參酌して定むること、

甲種合格行衛不明 石城郡小名濱町古港磯柴次郎（三〇）は歩兵に合格して近く入營する筈となつたが所在不明なため目下捜索中

平町に腸チフス

平町南町一一鳥本敬三（八）は六日來臥床中であつたが十日腸チフスと決定隔離

明日も今日と 變りない空模様

今日の溫度は十二度で まるで小春日和り

石城地方は冬には珍らしく溫は何時迄續くか果しなしが昨十三日などは七十度からあり恰度五六月の氣候で全く氣違ひの様な陽氣に驚かされてゐる此の變体的氣春を通り越してまさしく初夏氣分である右に就て小名濱測候所では

今十四日の氣溫は昨日より五度下つて十二度である原因は例年支那北方に發達する高氣壓が本年はまだ發達せぬためである明十五日は今日と同樣曇つたり降つたりであるが二三日過ぎればそろ〳〵冬らしい氣分にならう云々と語つてゐる

平看護婦會

平町南町

某蓄音機店から——私は三年程家を留守にし夜歸つた處實父は俄かに危篤に陥つたが父は平素から蓄音器を聞きたい〳〵と稱してゐた故香奠を以て拂ふから蓄音器を一臺貸してくれ——とさも學者らしい事を述べて詐取之れを十五圓で某質店に入質

した事實も自白したが此の外同樣手段の詐欺が數件ある模樣で平署員もその巧妙なのには驚ろいてゐた

塔中の怪（四十六）

無名氏

私はしきりに星の冠の玉を振つて見たが不思議な事にはいくら振つてもその玉の内部に満たされたる黄金の露のやうな激體は動きもしなければ波も立たない太陽の光線に透かして見ると透き通るやうな綺麗な液体の中で二個の冠に似たる形はさながら水中の魚の如く緑の冠が浮き上る時には紅の冠が沈み紅の冠が浮き上る時には緑の冠が沈むその様は恰も紅が晝で、緑が夜で晝と夜とが交代にじゆん環して居るかの様であるさても〳〵不思議な玉よと私はそゞろに見とれてゐると、長岡探偵は此時大空を仰いで居つた眼を私の方に轉じ

どうだ、奇妙な玉だらうと微笑を浮べて私の肩をたゝいた。

イヤ實に奇妙な——不思議な玉だと私はつぶやく様に答へてこの綺麗な玉の中をこの二個のかんむりのやうな物は始終かうやつて動いてゐるのかねえ

左様幾千年以來絶えずと長岡探偵は片手に年を繰つて見て大約二千年以來絶えずこの小さな玉の中でこの小さい二個のかんむりは紅が沈むかと見れば緑が浮ぶこの不思議な有様を見ても此の玉の尋常の物でないといふ事が分るだらう

うむ分る分ると私は小首を傾けたこの玉がどんなに驚くべき魔力を有して居るかはまだ分らぬが、兎に角尋常一様の物でないといふ事だけは分るやがて私は充分に寶の玉を見終つて後右の掌上に載せて静かに差出した、私は元來そゝかしい男萬一過失がない内に此の玉を返へそうと思つたからで、

然かるに長岡探偵は受取らないポツケットに両手を突き込んだ儘、ジツと私の顔をながめてその玉は君が持つて居らねばならぬといふ、え、え、僕が持つて居る？このタマを！と私は當惑した僕はこのタマの使用法も何んにも知らぬぞ

使用法を知らねばこそ持つて居れといふのだ、と長岡探偵は意味あり氣に星のかんむりのタマニ瞳を移して

滋養强壯劑
キナサフラン酒
飛ぶ様に賣れる
定價　小瓶一二〇　大瓶二〇〇　德用瓶五〇〇
特約大販賣店　山野邊藥局　平町五丁目角

有聲座の割引券あり
平驛前　丸山雜貨店

正確　体温計　寒暖計　関内藥局　電四〇一番

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前　電話は三四三番

確實敏捷は久の命生の
和洋銅鐵　金物問屋
磐城セメント株式會社特約代理店
久屋商店
平五丁目　電話一三九番
良品廉賣に勝る商略なし

共濟病院　各科專門
耳鼻咽喉科　醫學士　井上俊次郎
産婦人科　醫學博士　渡部貞助
外科　醫學博士　松枝茂
醫學士　氏家憲介
内科　醫學博士　桂重次
醫學博士　波睦
X光線科　醫學博士　中西林藏
醫學博士　難波睦
技師　工藤慶造
衛生試驗所　醫學博士　中西林藏
技師　小熊英夫
◎藥局　藥劑士　吉本孝平
本院醫事法制囑託　法學士　岡蕃
本院主　賀澤忠治
一、衛生試驗所
一、病氣相談所
一、救療所
（共濟病院内）
◆共濟病院は皆さんの病院であります
御氣付のことは御注意願ひます
平町　電話六四一番　磐城
◎看護婦募集　共濟病院

冬の服生學
是非冬服でやかなも
レコ　めな　いな
なら　出　黒
自と　來　小
信を　生　學
持て　る　生
を　地　倉
おて　裁　服
共縫　で
奬分申に
小學生用服（付ボツンボツ長）
一號　二號　三號　四號　五號
七歳用　八歳用　九歳用　十歳用　十一歳用　十二歳用
一圓十八錢　二圓〇〇錢　二圓〇二錢　二圓十四錢　二圓〇六錢
中學生用服
六號　七號　八號　九號
一年生　二年生　三年生　四年生　五年生
四圓十二錢　四圓十四錢　四圓十六錢　四圓十八錢
◎各學校制定ボタンハ十五錢高
中學外套も十月中旬より賣出します
平二丁目　おかや洋服店　電話二〇五番

七五三の御寫眞は
お子さま大きくなつても
寫眞は大きくなりません
藝術寫眞　中島寫眞館

生徒募集（學則及び入學案内申込次第進呈す）時間貸歡迎
自動車界今後の大發展に順應せんが爲め、本校茲に見る所あり、有爲の青年の爲め奉仕的破格の授業料を特定し大募集を開始せり。機は熟せり、先づ來りて本校獨特の教授を見られん事をのぞむ。實地練習の長時間にして學資の低廉なること全國無比、本校の最も誇りとする所なり。本校出身者の受驗者は實に七割以上の合格率を有し現在入學生七十餘名の多數なり。
毎月一日新學期開始
一、本科　三ヶ月卒業　六十圓
學科實習費共　三ヶ月分
一、速成科　二ヶ月卒業　四十五圓
學科實習費共　二ヶ月分
一、受驗科　一ヶ月卒業　三十圓
學科實習費共　一ヶ月分
◎受驗準備短期練習部　毎月試驗前十日間全學費……十圓
◎卒業生は試驗前無料練習の便あり
◎時間貸直下　新フォード　シボレー　一時間三圓　T型フォード一時間二圓
磐城自動學校　電話六四〇番
福島縣平町四町軒町

冬の大賣出し
御婚禮用品各種
丸帶、江戸褄、訪問着
御召、錦紗小紋、袴
防寒用品各種
レデーコート、ジョール、羅紗オーバー、既成コート、
新製ベビー用品陳列
ベビー洋服、メリヤス肌着、袖ナシ、男女初着、パンツ、各種
平町　三井呉服店